

## 2つの設計コンペ・コンテストで入賞

建築科3年生が応募した「第13回建築甲子園」(日本建築士会主催)と「第25回全国高校生設計アイデアコンテスト」(長崎総合科学大学主催)で2作品が入賞しました。



「第13回建築甲子園」(日本建築士会主催)において、井上 愛梨さんと富田 隆鳳さんが提案した「屋根のない地区センター」が、京都府代表として全国大会への出品が決まりました。

今年度は、京都府から本校と舞鶴高専が出品し、合計5点の作品の中から代表に選ばれました。舞鶴高専は昨年度の全国大会優勝校であり、その中から全国に進んだことは大変喜ばしいことです。また、本校から全国大会出場は第9回大会以来となります。

今回提案した作品は、「地区センター」＝「人々が集まる場所」ということで、あえて1つの大きな建物を作るのではなく、タイトル通り様々な施設を配置し、全ての年代の方が集まる場を提案しました。地区センターの概念を変えた素晴らしいものになりました。

第25回全国高校生設計アイデアコンテスト(長崎総合科学大学主催)において、三野 穂さんが提案した「海中資料館」が、出品数50点の中から、最優秀賞、優秀賞に次いで、入賞しました。本校としては昨年度に引き続いての入賞となります。

今回のテーマ「浮体」という課題は『水に関わりながら造形物の提案、物自体の内容や形はもちろんのこと、そのものを通して何がもたらされるのか』という発想の展開も任せられているため、他の本校の応募した生徒からも様々な案が出されました。三野さんの作品は、水の上を立っているような非日常感と和の空間を味わえる造形物を提案した作品となっています。

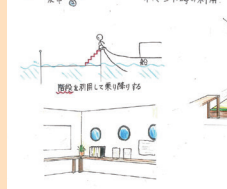
今回、宮津天橋高校1期生として、後輩たちにつながる大きな成果を上げてくれました。この経験を新しいステージでも活かしてくれると信じています。

### 海中資料館

大きさ：縦横、奥行き各4m  
利用者：観光客  
使用用途：休憩所  
モチーフ：潜水艦

コンセプト  
潜水艦のような特別な空間と海の上に立つような非日常感を同時に得られる浮体

特徴  
① 立っ位置が海面と同じ高さになることで海の上に立つような非日常感を味わうことができる。  
② 一面がガラス張りであるため、人々が特別感を感じる。床から一面ガラス張りになっている。海が光を反射し、和の雰囲気を感じることができる。  
③ 傾斜階段を昇ると、お土産店がガラス張りの壁に囲まれた海が見え、お土産を自由に閲覧できる。  
④ 大学生が研究した資料や、地域のごり書かれた資料を置いて観光客が自由に閲覧できる。  
⑤ ガラス面を壁の「フォスグリーン」で覆う。  
⑥ 地域の特産品や、地域の特産品、大学生が紹介するものを展示。イベント時の利用。



## 3年生課題研究 上世屋「東屋」製作・「ままごとハウス」製作 近況

現在製作中の上世屋に設置する東屋は、躯体の加工が終わり、屋根の板金作業と壁板の取り付けの仕上げ作業を行っています。今後は細部の仕上げ作業及び防腐処理、掲示板の製作等が待っています。

上世屋地区は、積雪が多いことを考えて、屋根の勾配は従来よりも急にしています。また、縁側を設けて、田舎のおばあちゃんに帰ってきたような懐かしさを感じる空間にし、ベンチは水を表現するために波型にしています。腰壁には世屋地区を象徴する「藤」の花などを彫刻しています。12月7日(水)に現地作業及び寄贈を行う予定です。生徒たちは、完成まで丁寧な作業を心掛けて寄贈したいと思います。



上世屋「東屋」製作

## 「ままごとハウス」製作



毎年製作を行っている「ままごとハウス」の製作を、今年度は建築科3年生学びコースの7名が製作しています。

製作する上で、木造に関する知識や、技術向上はもちろんのこと、子どもたちに喜んでもらえるよう丁寧な作業を心がけ、現在は壁板を張るなどの仕上げ作業を行っています。今後は、水口板金所の水口様にお世話になり、屋根の板金葺きを行って完成となります。

完成した「ままごとハウス」は、与謝野町立「のだがわこども園」へ12月中旬に寄贈予定です。

ままごとハウス製作を通し、寄贈日には自分たちの思いも一緒に届けられるよう完成までしっかりと取り組んでいきます。

## 重要文化財「旧三上家住宅」で茶道体験

京都府教育委員会の伝統文化体験事業の一環として、建築科1年生が茶道体験を行いました。単に茶道の体験を行うわけではなく、重要文化財「旧三上家住宅」の一室をお借りして実施することで、伝統建築の見学・学習も一緒に行っています。

今年度は2班に分かれ、茶道体験を行う班とガイドの方による「旧三上家住宅」の見学班に分かれ、伝統文化と伝統建築を学びました。

茶道体験では、本学舎の茶道部で指導されている糸井 純子氏を講師に、茶道の歴史・作法の説明やお手前の実演・体験などを行いました。茶道の基本である3種類の「礼」の重要性や立場・場面によって使い分けることを学び、実際にお点前をいただきながら実践しました。

生徒たちは、抹茶を飲むことや茶道体験が初めての生徒もいましたが、伝統建築の建物の一室から風情ある庭園の景色を眺めてのお点前は格別なものでした。また、一部の生徒は、生徒同士でもてなす側の役やお茶を点てる体験もしました。

残念ながら今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、茶室での体験はできませんでしたが、生徒たちは伝統建築の造りや歴史を学び、伝統文化の茶道を体験し、2つの「伝統」を体感できました。



## 建築科の魅力をもっと知って!! ~オープンスクール~

11月5日(土)、中学3年生を対象に本科の学科説明に加え、授業の様子を見学してもらうオープンスクールが行われました。

建築科には、27名の中学生が参加し、最初の全体会で学科についての説明をしました。その後、3年生の「建築設計製図」の授業見学、製作中の「ままごとハウス」や「東屋」など建築科の魅力について触れてもらいました。さらに、建築科独自の教室や今年度導入された最新機器・試験機などを見学してもらいました。

限られた時間の中でしたが、建築科のことをより知ってもらえる良い機会になりました。未来の建築士! の可能性を秘めた中学3年生のみなさんを、高校生の先輩たちは心待ちにしています。

今回のオープンスクールで、建築科のことを深く知ってもらい、中学3年生のみなさんの進路選択の一助となれば嬉しく思います。頑張ってください!!



## 「鉄筋組立実習」出前講座 ~プロの技術を目指して~

11月17日(木)、関西鉄筋工業協同組合より14名の方を講師としてお迎えし、建築現場で実際に使用される鉄筋を使って「鉄筋組立実習」を建築科2年生が行いました。

6班に分かれてそれぞれ技術指導を受け、基礎と柱・梁の組み立てを2時間かけて完成させました。実際にプロの方から指導していただくことで、2月に行われる鉄筋施工(鉄筋組立)の技能検定試験を受検する生徒にとっても鉄筋組立の技術やポイントなどを学ぶとても良い経験となりました。

今回の出前講座を通して、建築の専門性の奥深さを知るとともに、建設業に対する職業意識・勤労観をさらに高めることができました。



## 第24回小学生建築デザイン展 ~今年度も力作がずらりと並ぶ~

第24回小学生建築デザイン展を開催しました。今年度のテーマは、「あったらいいな“ペットと過ごせる家”」です。応募総数は、宮津・与謝管内の小学校から76点で、どの作品も夢のある素晴らしい作品ばかりでした。

応募作品の展示を11月4日(金)・5日(土)に、表彰式を5日(土)に開催しました。

後援団体の宮津建設業協会 会長 安田 浩一 様、京都府建築士会宮津支部 支部長 大村 利和 様、宮津商業協同組合 理事長 増田 聡 様にお越しいただき、26名の入賞者に賞状と記念品を贈呈していただきました。

建築科1年生の代表生徒が司会や審査員特別賞の表彰を行い、生徒の中には、過去にデザイン展へ応募や入賞した生徒でもあり、未来の建築科後輩になるかもしれない小学生のために、立派に進行など務めていました。

今年度も、テーマに沿った色々な発想や絵の表現をした力作が多く並びました。

